医学教育分野別評価　大阪大学医学部医学科　年次報告書

２０２６年度

医学教育分野別評価の受審　2020（令和2）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.32
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36

はじめに

本学医学部医学科は､2020年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021年6月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36を踏まえ、2026年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2025年4月1日～2026年3月31日を対象としている。

2025年度の代表的成果は以下のとおりである。

・教学Institutional Research（IR）部門における計画的な情報収集と分析、および分析結果の委員会報告が行われ、教学IRを起点とした計画的PDCAサイクルが本格的に稼働した。
・学修成果を見直し、データサイエンスやAIなどに関連する項目を追加した。
・基礎医学科目に「データサイエンスA」「データサイエンスB」を導入した。
・3年次「基礎医学講座配属」に全体発表会を導入し、学生による相互評価を行った。
・医療倫理学および医療法学の科目コーディネータが、各領域の全体像を見直した。
・臨床現場における評価としてDOPS、Mini-CEXの導入を継続している。DOPSの教育効果を学会で発表し、普及のためにFaculty Developmentを開催した。
・仏ソルボンヌ大学との臨床実習協定締結後、初めて本学学生2名を同大学に派遣した。

１　使命と学修成果

改善した項目

１．使命と学修成果	**1.3 学修成果**
基本的水準　判定：適合 **質的向上のための水準　判定：適合**	
改善のための助言・示唆	
助言：学修成果について、学生と教員に確実に周知すべきである。 示唆：卒業時の学修成果と、現行の臨床研修制度の学修成果との関連を明確にして、広く周知することが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容	
「適切な行動は学則・行動規範等に記載しておくべきである（B1.3.7）」に対応するため、1年次学生に配布する履修案内に「扶氏医戒之略」を行動規範として記載した（資料1.3-1）	

使命と学修成果は7年に1回の頻度で見直し、教育に関わる主要な構成者が参加するとともに、広い範囲の教育関係者からの意見を聴取することを2024年度第1回医学科カリキュラム委員会にて定めた。2025年度第1回医学科カリキュラム委員会（2025年11月18日開催）において学修成果にデータサイエンスに関連する内容を追加する方針が定まり(資料1.3-2)、メール審議にて改訂版の学修成果が承認された（資料1.3-3）。2025年度第2回医学科カリキュラム委員会（2026年2月17日開催）にて使命の見直しを行い、修正は不要である旨を確認した（資料1.3-4）。
今後の計画
学修成果の周知は計画的かつ確実に行う。学生に対しては履修案内による通知の他、授業では1年次「医学序説」、3年次「基礎医学講座配属」、4年次クリニカル・クラークシップノート、5年次「研究室配属」において周知する。教員に対しては新任教員FDにて周知する。 使命と学修成果は7年に1回の頻度で見直し、教育に関わる主要な構成者が参加するとともに、広い範囲の教育関係者からの意見を聴取する。
教育活動等の状況がわかる資料
資料1.3-1　令和7年度大阪大学医学部医学科履修案内 資料1.3-2　2025年度第1回医学科カリキュラム委員会議事要旨 資料1.3-3　2025年度医学科カリキュラム委員会メール審議 資料1.3-4　2025年度第2回医学科カリキュラム委員会議事要旨

２　教育プログラム

改善した項目

２．教育プログラム	**2.1 教育プログラムの構成**
関連する教育活動、改善内容	
学修成果が6年間の医学教育で達成される全体像であるカリキュラム・マップは2020年6月1日医学科会議で報告されているが、幅広く周知するため2026年2月5日より医学部ホームページに公開した（資料2.1-1）。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料2.1-1　大阪大学医学部ホームページ、カリキュラム・マップ	

２．教育プログラム	**2.2 科学的方法**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
EBMを臨床現場で効果的に実践できるように、体系的な教育を行うべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
「EBM（科学的根拠に基づく医学）（B2.2.3）」の臨床実習における実施状況を、2025年	

度初めて臨床実習到達目標「根拠に基づいた医療（EBM）の重要性を説明できる」の達成状況によりモニタし、2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会（2025 年 9 月 18 日開催）で報告した（資料 2.2-1）。
今後の計画
引き続き、臨床実習到達目標の達成状況を通じて EBM の実施状況をモニタする。
教育活動等の状況がわかる資料
資料 2.2-1　2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨

２．教育プログラム	**2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
行動科学の体系的なカリキュラムを定め、確実に実践すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
「行動科学（B2.4.1）」の体系的なカリキュラムの一環として、1 年次「新入生履修指導」においては共通教育で行動科学の授業として社会学、行動学、心理学を積極的に履修するよう指導するとともに（資料 2.4-1）、1 年次「医学序説」における「適塾の教育、大阪大学医学部の教育」にて行動科学の全体像を示している（資料 2.4-2）。 「医療倫理学（B2.4.3）」のカリキュラムを定期的に見直す目的で、科目コーディネータを中心に構成された 2025 年度第 1 回医療倫理学評価ワーキンググループ（2025 年 9 月 4 日開催）にて医療倫理学教育の全体像を見直した（資料 2.4-3）。 「医療法学（B2.4.4）」のカリキュラムを定期的に見直す目的で、科目コーディネータを中心に構成された 2025 年度第 1 回医療法学コーディネータ打合せ（2025 年 11 月 14 日開催）にて医療倫理学教育の全体像を見直した（資料 2.4-4）。 臨床実習における「行動科学（B2.4.1）」および「医療倫理学（B2.4.3）」の実施状況を、2025 年度初めて臨床実習到達目標「行動科学に基づく行動変容（生活習慣病における生活習慣の改善など）の重要性を説明できる」および「医療における倫理の重要性を説明できる」の達成状況によりモニタし、2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会（2025 年 9 月 18 日開催）および 2025 年度第 1 回医療倫理学評価ワーキンググループにて確認した（資料 2.2-1、資料 2.4-3）。	
今後の計画	
引き続き、臨床実習到達目標の達成状況を通じて行動科学および医療倫理学の実施状況をモニタする。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料 2.4-1　1 年次新入生履修指導スライド 資料 2.4-2　1 年次医学序説「適塾の教育、大阪大学医学部の教育」配布資料 資料 2.4-3　2025 年度第 1 回医療倫理学評価ワーキンググループ議事要旨 資料 2.4-4　2025 年度第 1 回医療法学コーディネータ打合せメモ 資料 2.2-1　2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨	

２．教育プログラム	2.5 臨床医学と技能

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

１）卒業後に適切な医療的責務を果たせるようになるために、臨床実習での経験を確保するカリキュラムを実践すべきである。
２）臨床実習に関して、重要な診療科で学修するための十分な時間を、全員に確保するべきである。
３）学生がチームの一員として、責任をもって診療に参加できる実習を充実させるべきである。
４）臨床実習で専門職/多職種連携実践、健康増進と予防医学に関する教育を充実すべきである。
５)診療参加型臨床実習をさらに推進するために、学生に対して病院教職員と同等の医療安全や感染防御の研修を検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容

「卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得（B2.5.1）」を達成するため、１）若手教員対象の医学科 FD「医学科の教員として求められること」（2026 年 2 月 26 日開催）および学生に対する「臨床導入実習」の授業「臨床実習説明会」（2025 年 12 月 12 日開催）にて、診療参加型臨床実習を周知徹底した。診療参加型臨床実習の達成状況は臨床実習到達度目標の達成状況よりモニタしている。２）多職種連携教育として、2 年次「早期臨床体験実習 2」および 3 年次共通教育「現代の生命倫理・法・経済を考える」を継続している。

「健康増進と予防医学の体験（B2.5.3）」の臨床実習における実施状況を、2025 年度初めて臨床実習到達目標「一次予防（健康増進・疾病予防：喫煙・飲酒・食事・運動などの生活習慣改善）の重要性を説明できる。」「二次予防（早期発見・早期治療：健康診断・人間ドックなど）の重要性を説明できる。」「三次予防（機能維持・回復：リハビリテーション・保健指導など）の重要性を説明できる。」の達成状況によりモニタし、2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会（2025 年 9 月 18 日開催）にて確認した（資料 2.2-1）。

今後の計画

引き続き、診療参加型臨床実習の周知徹底を教員と学生双方に対して行い、その達成状況は臨床実習到達目標に加えて 2026 年度から学生アンケートよりモニタする。

引き続き、多職種連携教育は 2 年次「早期臨床体験実習 2」および 3 年次共通教育「現代の生命倫理･法･経済を考える」で継続する。

引き続き、臨床実習到達目標の達成状況を通じて健康増進と予防医学の実施状況をモニタする。

教育活動等の状況がわかる資料

資料 2.2-1　2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨

２．教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準　判定：部分的適合
改善のための示唆
水平的統合・垂直的統合型教育を確実に実施することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
水平的統合について 2025 年度シラバスより導入状況をモニタすると、2024 年度と同じ状況であった。すなわち、3 年次「環境医学・公衆衛生学」では講義および実習で水平的統合が行われていた。また、3，4 年次臨床医学の講義においても、臓器別または関連分野別に水平的統合が行われていた。具体的には「消化器病学」（消化器内科と消化器外科）、「循環器病学」（循環器内科と心臓血管外科）、「呼吸器病学」（呼吸器内科と呼吸器外科）、「神経病学」（神経内科と脳神経外科）、「老年・総合診療・検査診断学」（老年・総合内科と臨床検査部）、「腎・ 泌尿器学」（腎臓内科と泌尿器科）、「小児科・小児外科」（小児科と小児外科）、「麻酔・救急医学」（麻酔科と救命救急センター）、女性医学（産科婦人科と乳腺外科）である。4 年次の「臨床導入実習」では症例の鑑別診断を科目横断的な演習形式で行われている。6 年次の「臨床医学特論」の授業「慢性痛の診療」では科目横断的な水平的統合が行われていた。 垂直的統合について 2025 年度シラバスより導入状況をモニタすると、2024 年度に確認された 2 年次「生理学」「形態学」、3 年次「病理学」「医学概論」「環境医学・公衆衛生学」「感染症・免疫学」「放射線基礎医学」「薬理学」、4 年次「消化器病学」、6 年次「臨床医学特論」の継続を確認するとともに、あらたに 2 年次「遺伝学」、4 年次「呼吸器病学」「神経学」「腎・泌尿器科学」「内分泌・代謝内科学」「放射線医学」「免疫・アレルギー内科学」「老年・総合診療・検査診断学」「眼科学」「耳鼻咽喉学」「女性医学（産科婦人科学・乳腺内分泌外科学）」「皮膚科学」「麻酔・救急医学」においても部分的な統合が確認された。 以上の水平的統合および垂直的統合の状況は 2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会（2026 年 2 月 17 日開催）にて確認した（資料 1.3-4）。
今後の計画
引き続き、シラバス登録において垂直的統合の導入を促し、その導入状況についてはシラバスを通じてモニタし、その結果をカリキュラム委員会にて確認する。
教育活動等の状況がわかる資料
資料 1.3-4　2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会議事要旨

２．教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準　判定：部分適合	
改善のための示唆	
医学部医学科カリキュラム委員会や、医学科教育センターを中心にして、各担当委員会・WG を組織の中で明確に位置づけ、カリキュラムを確実に計画・実施することが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容	
「カリキュラム委員会を中心にして、教育カリキュラムの改善を計画し、実施すべきであ	

る。（Q2.7.1）」への対応として、医学系研究科医学科会議（2025 年 5 月 8 日開催）で教育カリキュラムの改善を目的とした新しい医学教育改革タスクフォースが結成され（資料 2.7-1）、その経過が医学部医学科教育研究会議（12 月 11 日開催）で報告された（資料 2.7-2）。
教育活動等の状況がわかる資料
資料 2.7-1　医学系研究科医学科会議記録（2025 年 5 月 8 日開催） 資料 2.7-2　医学部医学科教育研究会議記録（2025 年 12 月 11 日開催）

３　学生の評価

改善した項目

３．学生の評価	**3.1 評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
１）臨床実習において、知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。 ２）学内で行われている評価について、評価作成者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。 ３）基本的臨床能力を確実に測定できるよう、大学独自の Post-CC OSCE を改良すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
１）臨床実習の評価において、本学は Mini-CEX や DOPS など「臨床現場での評価」を重視している。第 12 回日本外科教育学会（2025 年 9 月 14 日開催）にて DOPS の実施状況を発表し、改善のための助言を受けた（資料 3.1-1）。FD「臨床実習における医学生の技能と態度を評価する：DOPS」（2025 年 9 月 17 日開催）にて DOPS の評価項目作成に関するワークショップを開催し、DOPS の導入を促した（資料 3.1-2）。2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会（2025 年 9 月 18 日開催）にて老年総合内科における Mini-CEX 導入状況が報告された（資料 2.2-1）。2026 年 1 月に Mini-CEX や DOPS の導入状況に関するアンケートを行ったところ 22 診療科・部門より回答あり、Mini-CEX 導入予定 5、DOPS 導入予定 7 であることを確認した。同結果は、2025 年度第 2 回クリニカル・クラークシップ委員会（2026 年 3 月 12 日開催）にて報告した（資料 3.1-3）。 ２）2025 年度第 2 回 3 年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループ（2025 年 11 月 19 日開催）にて試験結果に対する精密な分析（成績分布および GPCA）および試験問題の適切性に関する第三者評価を行うとともに（資料 3.1-4）、同様の取り組みを今年度あらたに 2025 年度第 1 回 2 年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループ（2025 年 11 月 20 日開催）にて行った（資料 3.1-5）。 ３）大学独自の臨床実習後 OSCE を改良するための情報収集・分析を行っている。 その他、今年度より 3 年次「基礎医学講座配属」に新しく導入した全体発表会では、学生発表に対する評価を教員のみならず学生が行う peer review 制度を導入した（資料 3.1-6）。	
今後の計画	
１）消化器外科における DOPS の導入状況および老年総合内科における Mini-CEX 導入状況を	

確認するとともに、導入する診療科を拡大する。 ２）4年次臨床講義総括試験における評価の精密な検討においては、困難度（正答率）に加えて項目識別力を追加することを臨床講義審査委員会に提案する。2年次および3年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループにおいては、引き続き各科目の試験結果に対する精密な分析（成績分布およびGPCA）および試験問題の適切性に対する第三者評価を行う。 ３）引き続き、大学独自の臨床実習後OSCEの在り方について検討を行う。
教育活動等の状況がわかる資料
資料3.1-1　第12回日本外科教育学会抄録集 資料3.1-2　新任教員研修プログラム計画書（FD「臨床実習における医学生の技能と態度を評価する：DOPS」） 資料2.2-1　2025年度第1回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨 資料3.1-3　2025年度第2回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨 資料3.1-4　2025年度第2回3年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループメモ 資料3.1-5　2025年度第1回2年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループメモ 資料3.1-6　3年次基礎医学講座配属・発表会　評価票（学生用）

３．学生の評価	**3.1 評価方法**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
１）評価の信頼性、妥当性を検証することが望まれる。 ２）MiniCEXや360度評価など、新しい評価方法を導入することが望まれる。 ３）外部評価者を活用することが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容	
２）5年次「研究室配属」で開発した新しい評価を3年次「基礎医学講座配属」に導入することを検討したが、教員説明会（2025年5月15日開催）における意見を鑑み、導入には至らなかった。Mini-CEXおよびDOPSの導入を進めているが、もはや新しい評価方法といえるものではなく、基本的水準にて具体的改善状況を示した。	
今後の計画	
２）5年次「研究室配属」で開発した新しい評価を3年次「基礎医学講座配属」に導入する検討を続ける。	
教育活動等の状況がわかる資料	
なし	

３．学生の評価	**3.2 評価と学修との関連**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
１）教育の各段階において、形成的評価を確実かつ十分に行って、学生の学修を促進すべき	

である。 ２）教育の各段階において、目標とする学修成果を学生が確実に達成していることを評価すべきである。
関連する教育活動、改善内容
１）シラバス登録時に各科目に対して形成的評価の導入を促し、シラバスよりその導入状況をモニタしている。2025 年度シラバスを確認すると、2024 年度と同様に基礎医学では「形態学」、「生化学」、「生理学」、「薬理学」、「病理学」、「遺伝学」、「放射線基礎医学」、臨床医学では「循環器内科学」、「耳鼻咽喉科学」で形成的評価が導入されていることを確認するとともに、今年度あらたに臨床医学「小児科・小児外科学」で形成的評価の導入を確認した。この結果は、2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会（2026 年 2 月 17 日開催）にて確認した（資料 1.3-4）。 ２）教育の各段階において学修成果の達成を評価する方法を検討している。 　学生自身による「自己評価」を開始している。2024 年度より 6 年次臨床実習後 OSCE 後に導入したが、2025 年度より 4 年次臨床実習前 OSCE 後にも導入した。 　その他、教員による「客観的評価」として 5 年次「研究室配属」に学修成果と連動した評価方法を導入している。同様の評価方法を 3 年次「基礎医学講座配属」に導入することで、研究能力が 3 年次、5 年次と段階的に達成されていることを確認したいと考えている。しかし、3 年次「基礎医学講座配属」教員説明会（2025 年 5 月 15 日開催）における教員意見を鑑み、2025 年度は導入に至らなかった。
今後の計画
１）引き続き、シラバス登録において形成的評価の導入を促し、その導入状況については翌年のシラバスを通じて確認を行い、その結果をカリキュラム委員会に報告する。 ２）5 年次「研究室配属」で導入した学修成果と連動する評価を 3 年次「基礎医学講座配属」にも導入し、研究能力の獲得が段階的に行われていることを確認する。 　学修成果の到達度自己評価の結果は、2026 年 7 月頃開催予定のプログラム評価委員会にて確認する予定である。
教育活動等の状況がわかる資料
資料 1.3-4　2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会議事要旨

４　学生

改善した項目

４．学生	**4.1　入学方針と入学選抜**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生の選抜と、医学部の使命、アドミッション・ポリシー、学修成果との関係性を明確にすることが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容	

2024 年度第 1 回医学科カリキュラム委員会（2025 年 2 月 18 日開催）において、学生の選抜と、医学部の使命、アドミッション・ポリシー、学修成果との関係性を入試委員会で明確にしてもらうことが再確認された。
今後の計画
学生の選抜と、医学部の使命、アドミッション・ポリシー、学修成果との関係性につき教育センターで予備的検討を行ったうえで、副研究科長より入試委員会に附議する。その結果に基づき、医学部ホームページを更新する。 医学部の使命、学修成果の見直しに伴いアドミッション・ポリシーの見直しを予定している。4 月の教務委員会、入試委員会で意見照会後、教授会（2026 年 5 月 14 日開催予定）で医学科としての方針を決定し、本部の入試委員会で最終確定を行う予定である。
教育活動等の状況がわかる資料
なし

４．学生	**4.2　学生の受け入れ**
質的向上のための水準　判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
なし	
関連する教育活動、改善内容	
「医学部は、他の教育関係者とも協議して入学者の数と資質を定期的に見直すべきである。（Q4.2.1）」に対応するため、2025 年 7 月 22 日教学 IR が副研究科長に対して入試区分別の学生のパフォーマンス比較を報告した。その内容に基づき、入試区分別の入学者の資質について医学系研究科医学科会議（2025 年 9 月 11 日、12 月 11 日、2026 年 1 月 8 日開催）において議論が行われた。	
教育活動等の状況がわかる資料	
なし	

４．教育	**4.3　学生のカウンセリングと支援**
基本的水準　判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
コロナ禍を契機に、医学科 1 年生に対し教授がチューターとして学生 1～2 名と定期的な面談を開始したことは評価できる。	
関連する教育活動、改善内容	
「社会的、経済的および個人的事情に対応して学生を支援する仕組みを提供しなければならない。（B4.3.2）」に対応するため、各種障害を有する学生への合理的配慮を提供している。その具体的なプロセスは、大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター（HaCC）が学生カウンセリングを担当し、その内容に基づき医学科、HaCC、学生の協議により合理的配慮内容が決定され、実施されている。このような合理的配慮の仕組みについて、2024 年度	

FD で教員に周知を行った。 　コロナ禍を契機に低学年学生を対象とした学生ケアを目的として開始されたチューター制度は、コロナ収束、1 年次「基礎医学体験実習」の強化、「学生研究員コース」の設立等によりその役割を果たしたと判断し、2024 年度より廃止した。一方、教育センターにおいて、学生からの学修上（教育、ＭＤ、留学など）の相談を受け付けており、学生カウンセリングの実施状況を確認するシステムを教育センター内に構築した。2025 年度は教育関係 13 件、留学関係 2 件、MD 研究者育成プログラム関係 12 件の合計 27 件、学生からの学修上の相談を教育センターにて対応した。
今後の計画
学生カウンセリングの実施状況を把握するためのモニタを継続して行う。
教育活動等の状況がわかる資料
なし

４．教育	**4.4　学生の参加**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
医学科学生支援委員会など、学生に関する諸事項を審議する委員会に、学生が参加すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
学生が学生支援委員会に参加できるように、学生支援委員会（2024 年 10 月 28 日開催）で規程が改訂された。2025 年 10 月 20 日開催の学生支援委員会に学生 4 名が参加し、学生企画の催しについて説明が行われ、承認を受けた（資料 4.4-1）。 　学生の出席及び意見を促すよう働きかけ、2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会（2025 年 10 月 30 日開催）において、「MD 研究者育成プログラム」について学生委員より意見を聴取、2025 年度第 1 回医学科カリキュラム委員会（2025 年 11 月 18 日）では、「学修成果」の見直しの場において学生委員より意見を聴取した（資料 4.4-2、資料 1.3-2）。 　「MD 研究者育成プログラム」参加者の要望に基づき、学生間の交流の場となる学生会が 2023 年度より立ち上がった。この学生会には 2025 年度において 1 年次から 6 年次までの学生約 40 名が参加し、交流および情報交換が行われている。また、教育センターは学生会に対して学内外でのセミナー開催や研究会の情報を提供し、学生の研究活動を支援している。	
今後の計画	
学生支援委員会、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会における学生の出席および意見を促す。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料 4.4-1　医学科学生支援委員会議事要旨（2025 年 10 月 20 日開催） 資料 4.4-2　2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会議事要旨 資料 1.3-2　2025 年度第 1 回医学科カリキュラム委員会議事要旨	

５　教員

改善した項目

５．教員	5.2　教員の活動と能力開発
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教員の教育能力を向上させるためにFDなどを積極的に開催するとともに、多くの教員の参加を促すべきである。 個々の教員に対して、カリキュラム全体を十分に理解するよう促すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
2025年度は以下の3回のFDを開催して外部講師を招聘するなど教員の教育能力に努めた。 ①　「臨床実習における医学生の技能と態度を評価する：DOPS」　講師　医学科教育センター　渡部教授、髙橋講師　2025年9月17日開催、教員22名参加（資料3.1-2） ②　「医学科の教員として求められること」　講師　医学科教育センター　髙橋講師、難波助教　2026年2月26日開催、教員20名参加（資料5.2-1） ③　「医学教育における国際交流の展望」　講師　医学科教育センター　渡部教授、河盛准教授、ミシガン大学医学部　John Y. Kao　教授　2026年3月18日開催、教員14名参加（資料5.2-2） 上記②のFDにおいては大阪大学医学部医学科の教育カリキュラムも説明され、カリキュラム全体の理解に寄与した。	
今後の計画	
2026度も継続してFDを開催し、教員における大阪大学医学部カリキュラムの理解を高めるとともに、医学教育の最新のトピックスを提供する。2026年度の予定として、学外の臨床教授を対象としたFDを開催する予定である。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料3.1-2　新任教員研修プログラム計画書（FD「臨床実習における医学生の技能と態度を評価する：DOPS」） 資料5.2-1　新任教員研修プログラム計画書（FD「医学科の教員として求められること」） 資料5.2-2　新任教員研修プログラム計画書（FD「医学教育における国際交流の展望」）	

６　教育資源

改善した項目

６．教育資源	6.1　施設・設備
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	

シミュレーションセンターが教育コンテンツを提供し、個々の学生の施設の利用状況や技能習得状況を把握すべきである。
関連する教育活動、改善内容
2024 年度臨床実習開始学生から導入した新しい臨床実習到達目標（資料 6.1-1）を用い、2025 年 7 月臨床実習 1 終了後に達成状況を集計し（資料 6.1-2）、その結果を 2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会（2025 年 9 月 18 日開催）にて確認した（資料 2.2-1）。 昨今の本邦における災害事情を鑑み、大学全構成員に対する安否確認システムが運用されている（資料 6.1-3）。
今後の計画
臨床実習到達目標の集計票を用いて、定期的な診療経験記録の調査を継続し、診療経験や技能習得の状況を把握する。集計結果はクリニカル・クラークシップ委員会へフィードバックし、実習内容の改変を促す。 現状の防災訓練の実施状況をモニタのうえ、学生にも拡大する必要性を検討する。
教育活動等の状況がわかる資料
資料 6.1-1　クリニカル・クラークシップノート、臨床実習到達目標 資料 6.1-2　臨床実習 1（2024 年 1 月～2025 年 7 月）到達目標集計結果 資料 2.2-1　2025 年度第 1 回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨 資料 6.1-3　大阪大学安否確認システム（ANPIC）

６．教育資源	**6.2　臨床実習の資源**
基本的水準　判定：部分的適合 **質的向上のための水準　判定：適合**	
改善のための助言	
学生が学内・学外それぞれの臨床実習施設において、実際に経験する症候、疾患分類、患者数を把握し、確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
臨床実習における患者数と疾患分類、臨床実習施設の確保のため、臨床実習の詳細と実態の把握を目的とした臨床実習到達目標の改訂を行い（資料 6.1-1）、2025 年 1 月から新規運用を開始した。 2025 年 5 月に医学部附属病院統合診療棟が運用開始され、新しい外来、検査部、放射線部、手術部、ICU、くわえて総合周産期センターとアイセンターなど、最先端の医療を行うとともに医学、特に臨床教育において大きな発展が見込める環境が整っている（資料 6.2-1）。また、同院は病院機能評価（2025 年度受審）といった外部評価を通じて継続的に課題の抽出と改善への施策制定を行っている。 フランス・ソルボンヌ大学との協定締結による海外臨床実習が可能となり、2025 年度は 2 名の派遣を行った。交流の見直しが行われ派遣者数が 2 名から 4 名に増枠される計画となった。 附属病院では統合診療棟の運用開始とともに、来院者からの意見や要請を集め、附属病院運営会議において報告および討議され、これらを元に順次整備・改善につなげる仕組みを構築してい	

る。これらには臨床実習生に関するものも含まれており、臨床実習の充実化や改善につながる意見として収集されている。
今後の計画
臨床実習到達目標の集計票を用いて、定期的に経験状況を集計する。集計結果はクリニカル・クラークシップ委員会の各診療科へフィードバックし、確実に必要な臨床経験を積める実習内容への改変を促す。学外医療機関における臨床実習の指導者である臨床教授に対する教育能力向上を目的に、本クリニカル・クラークシップノートの活用法を含めたFDを開催する予定である。 海外臨床実習施設であるソルボンヌ大学への派遣開始とともに、2027年度より2名から4名に派遣者数が増加される予定である。
教育活動等の状況がわかる資料
資料6.1-1　クリニカル・クラークシップノート、臨床実習到達目標 資料6.2-1　大阪大学医学部附属病院統合診療棟

６．教育資源	**6.3　情報通信技術**
基本的水準　判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
なし	
関連する教育活動、改善内容	
全学が提供する情報セキュリティ研修は全学生にも適応され、有効かつ倫理的な利用についての教育を行っている（資料6.3-1）。また、近年新たな技術として発展の著しいAIの利用・教育指針についても全学により策定されている（資料6.3-2、資料6.3-3）。	
今後の計画	
AIといった本分野における変化に応じ、全学による指針を元に、随時方針の見直しと調整を継続する。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料6.3-1　令和7年度情報セキュリティ研修のお知らせ（学生向け） 資料6.3-2　生成AI（Generative AI）の利用について 資料6.3-3　生成AI教育ガイド	

６．教育資源	**6.4　医学研究と学識**
基本的水準　判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
医学序説、基礎医学講座配属、研究室配属、MD研究者育成プログラムなど医学研究と教育が関連するよう育む方針を策定し、実践していることは評価できる。	
関連する教育活動、改善内容	
医学研究能力の涵養に向けた教育課程のさらなる充実を図るべく、1年次「基礎医学体験	

実習」、3年次「基礎医学講座配属」、5年次「研究室配属」の各科目を整備し、段階的に医学研究能力を育み、また一貫した進歩が可能となるべく改善を進めている。2023年度に構築した5年次「研究室配属」における受講生自己評価を応用し（資料6.4-1）、3年次「基礎医学講座配属」においても統一した基準で自己評価を行うとともに、2025年度から科目発表会を行うなど、より実践的な研究参加を促し、研究能力を段階的に成長させるものへの改変を行った（資料6.4-2）。同時に1年次「基礎医学体験実習」でも、研究内容提示に加えて研究見学を推進するなど医学研究への意欲を促進し、また引き続く科目への導入となるものへの改変を行った（資料6.4-3）。

全学による「学部学生による自主研究奨励事業」において、医学科学生より2件が採択された（資料6.4-4）。

今後の計画

これまで行ったカリキュラム改変の効果を検証し、新たなカリキュラム開発を継続する。5年次「研究室配属」における教育効果の測定、3年次「基礎医学講座配属」における発表会導入といった改変の効果を検証する。

教育活動等の状況がわかる資料

資料6.4-1　令和7年度5年次研究室配属概要
資料6.4-2　令和7年度3年次基礎医学講座配属概要
資料6.4-3　令和7年度1年次基礎医学体験実習フィードバック結果
資料6.4-4　令和7年度大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」採択研究一覧

６．教育資源	**6.5　教育専門家**

基本的水準　判定：適合

特記すべき良い点（特色）

医学科教育センターなどに教育専門家を配置し、精力的に活動していることは評価できる。

関連する教育活動、改善内容

医学科教育センターの機能強化を目指し、2025年度から専任教員一名を増員した。

医学教育専門家有資格者による3年次「基礎医学講座配属」の大幅変革が行われた（資料6.4-2）。

医学教育専門家が主導し、臨床実習におけるDOPSが消化器外科で、Mini-CEXが老年・総合内科でそれぞれ実習内容に合わせた形で導入され、評価結果の解析により調整・改善が行われたことが2025年度第1回クリニカル・クラープシップ委員会にて報告された（資料2.2-1）。

医学教育専門家が主導し、定期的にFaculty Developmentが開催され、教育・評価技法の紹介による教職員の教育能力向上が行われた（資料3.1-2、資料5.2-1、資料5.2-2）。

教員が教育学的研究を行い、研究結果に関する論文発表を行った（資料6.5-1）。また、医学教育系学会において研究発表を行うと同時に（資料6.5-2、資料3.1-1）、最新の医学教育分野における知見の収集に努めた（資料6.5-3）。

今後の計画

教職員による教育学的研究を継続・推進し、それらからの医学科教育の拡充に努める。
教育活動等の状況がわかる資料
資料 6.4-2　令和 7 年度 3 年次基礎医学講座配属概要 資料 2.2-1　2025 年度第 1 回クリニカル・クラープシップ委員会議事要旨 資料 3.1-2　新任教員研修プログラム計画書（FD「臨床実習における医学生の技能と態度を評価する：DOPS」） 資料 5.2-1　新任教員研修プログラム計画書（FD「医学科の教員として求められること」） 資料 5.2-2　新任教員研修プログラム計画書（FD「医学教育における国際交流の展望」） 資料 6.5-1　日本エイズ学会誌：2025 Vol.27 No.2 Japanese 資料 6.5-2　第 57 回日本医学教育学会大会抄録 資料 3.1-1　第 12 回日本外科教育学会抄録集 資料 6.5-3　第 57 回日本医学教育学会大会プログラム

６．教育資源	**6.6　教育の交流**
基本的水準　判定：適合	
特記すべき良い点（特色）	
国内外の様々な他教育機関と交流協定を締結し、学生と教員の交流や研究協力を活発に行っていることは評価できる。	
関連する教育活動、改善内容	
国際的交流としてフランス・ソルボンヌ大学との協定締結による実習学生の受け入れを開始し、2025 年度から派遣を開始した（資料 6.6-1）。また、今後の交流推進を見据え、米国・ミシガン大学との合同 Faculty Development を開催し、医学教育における国際交流の現状とともに、今後の推進の可能性について討議を行った（資料 5.2-2）。 医学研究における国内他医育機関との交流活動として、全国リトリート、合同ラボツアー（資料 6.6-2）、西日本医学生学術フォーラムの運営や参加を行うとともに（資料 6.6-3）、財政的および人的支援を継続している。	
今後の計画	
引き続き適切な資源を投入した医学教育の交流を継続・推進し、それらからの医学科教育の拡充に努める。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料 6.6-1　2025 年度海外留学派遣実績 資料 5.2-2　新任教員研修プログラム計画書（FD「医学教育における国際交流の展望」） 資料 6.6-2　2025 年度四大学合同ラボツアー報告書 資料 6.6-3　第 10 回西日本医学生学術フォーラム	

７　教育プログラム評価

改善した項目

７．教育プログラム評価	7.1　教育プログラムのモニタと評価

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

プログラム評価では全学共通教育を含め、6 年間の医学部教育全体のプログラムをモニタし、評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容

2025 年度は、教育プログラムの課程と成果を定期的にモニタする仕組みが実際に稼働している。医学教育全体に関する情報を収集し解析を行う教学 IR において、専任職員による各種教学データの収集と解析が行われた（資料 7.1-1）。これらデータを元に、プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会においてカリキュラムの各要素と学生の進歩のモニタが行われ、2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会（2025 年 10 月 30 日開催）においては、特に MD 研究者育成プログラムに関する評価とともに改善施策設定の討議がなされた（資料 4.4-2）。同プログラムの改善施策は 2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会（2026 年 2 月 17 日開催）にて教育センターの提案する改善策が審議され承認された（資料 1.3-4）。

基礎医学領域において成績評価の解析が教学 IR により行われ（資料 7.1-2）、その解析結果が 2 年次および 3 年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループ（2025 年 11 月 19 日、20 日開催）において各科目担当者へフィードバックされた（資料 3.1-4、資料 3.1-5）。同様に特徴的なカリキュラム（医学研究や海外活動といった選択）の履修状況と学業成績との解析が教学 IR により行われ(資料 7.1-3)、2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会(2025 年 10 月 30 日開催）にて報告された（資料 4.4-2）。

卒業生に対して、長期間で獲得される成果として学修成果達成状況の自己評価調査を実施し、教学 IR で集計された（資料 7.1-4）。

卒業生の社会的責任すなわち社会的貢献として、卒業生の勤務先および状況、大学院進学や研究活動といった項目を踏まえての解析が教学 IR により行われ（資料 7.1-3）、その結果の一部が 2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会（2025 年 10 月 30 日開催）において報告された（資料 4.4-2）。

今後の計画

卒業生に行われた学修成果達成状況の自己評価調査結果は、2026 年度プログラム評価委員会で審議される予定である。

設けられた教育プログラムの課程と成果を定期的にモニタする仕組みの実効稼働を継続し、学生・卒業生を含めた教学に関する諸要素を元に、カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタし、プログラム評価を定期的に継続する。

教育活動等の状況がわかる資料

資料 7.1-1　教学 IR 活動方針
資料 4.4-2　2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会議事要旨
資料 1.3-4　2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会議事要旨
資料 7.1-2　2025 年度 2 年次・3 年次基礎医学講義・試験ワーキンググループ資料
資料 3.1-4　2025 年度第 2 回 3 年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループメモ
資料 3.1-5　2025 年度第 1 回 2 年次基礎医学講義・試験に関するワーキンググループメモ

資料 7.1-3　2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会資料 資料 7.1-4　卒後の学修成果達成状況アンケート集計結果

7．教育プログラム評価	**7.2　教員と学生からのフィードバック**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
6 年間のカリキュラム全体について、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
医学科カリキュラムにおいて、独自にフィードバックを収集する体制を構築し、順次実施を行っている。医学研究に関するカリキュラムフィードバックとして、1 年次「基礎医学体験実習」、3 年次「基礎医学講座配属」、5 年次「研究室配属」において、各科目の意義や実習参加状況、成長の自己評価ほかを全員から電子的に収集する体制を構築し、運用することにより段階的な教育カリキュラムに対するフィードバックを得て、プログラム評価につなげている（資料 7.2-1）。2025 年度は 3 年次「基礎医学講座配属」の大幅改変が行われたため、これらフィードバックの解析結果を受講生・教員双方へ開示した。また 2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会（2025 年 10 月 30 日開催）において、学生委員より MD 研究者育成プログラムに関するフィードバックを得た（資料 4.4-2）。 3 年次「基礎医学講座配属」および 5 年次「研究室配属」において、フィードバック内容を受け（資料 7.2-1、資料 7.2-2）、事前教育コンテンツの提供といった修正案の検討が統括部署である医学科教育センターにおいて開始された。	
今後の計画	
現在行っている、教員および学生からのフィードバックを収集する取り組みを継続するとともに、各科目ベースではなく共通教育を含めた 6 年間のカリキュラム全体に対するフィードバックを教員と学生から負担増加なく系統的かつ定期的に収集可能な方略について準備検討を行う。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料 7.2-1　令和 7 年度 3 年次基礎医学講座配属フィードバック結果 資料 4.4-2　2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会議事要旨 資料 7.2-2　令和 7 年度 5 年次研究室配属フィードバック結果	

7．教育プログラム評価	**7.3　学生と卒業生の実績**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラム評価に必要な卒業生のデータを体系的に収集すべきである。	
関連する教育活動、改善内容	
教学 IR において、学生と卒業生の実績の指標として、学修成果到達状況、長期間で獲得さ	

れる学修成果、附属病院専攻医修了者（専門医取得）、大学院修了者（学位取得）、海外で活躍する同窓生に関する情報の収集と解析を継続した。附属病院研修医の卒業生に対する調査結果の解析が行われ、これらの一部が 2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会（2025 年 10 月 30 日開催）にて報告された（資料 4.4-2）。また、在学生に対する学修成果の達成度自己評価調査を 4 年次、6 年次に対して行い、教学 IR により解析がなされた（資料 7.3-1）。また、医学科カリキュラムにおける教育資源として提供した海外実習、研究実習の履修状況と、学生や卒業生の実績（研究活動や診療実績）についての解析を行い、その結果は 2025 年度第 1 回プログラム評価委員会にて報告された（資料 4.4-2）。

学生と入学・選抜区分による学業成績、卒業後の実績についての分析が教学 IR により行われ、これらの結果が副研究科長へ報告され、医学系研究科医学科会議（2025 年 9 月 11 日、12 月 11 日、2026 年 1 月 8 日開催）にて入学指針の見直しが行われた。

今後の計画

在学生に対する学修成果の達成度自己評価調査の教学 IR による解析結果は、2026 年度プログラム評価委員会に報告される予定である。
学生と卒業生の実績に関わる様々なデータの収集と解析を継続し、関連する委員会などに情報提供を行う。

教育活動等の状況がわかる資料

資料 4-4.2　2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会議事要旨
資料 7.3-1　2025 年度学修成果達成状況アンケート集計結果

7．教育プログラム評価	**7.4　教育の関係者の関与**

基本的水準　判定：適合
質的向上水準　判定：部分的適合

改善のための助言

評価結果を広い範囲の教育の関係者に公表して、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めていくことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容

教育プログラムのモニタと評価に関わる主要な構成者として、2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会（2026 年 2 月 17 日開催）において大阪府からの代表者にオブザーバー参加頂いた（資料 1.3-4）。

2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会（2025 年 10 月 30 日開催）および 2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会（2026 年 2 月 17 日開催）において、学生委員を含む広い範囲の教育の関係者にプログラム評価結果を報告し、基本統計量および比較分析データをもとに MD 研究者育成プログラムに関するフィードバックを得た（資料 4.4-2、資料 1.3-4）。

今後の計画

引き続き卒業生の実績を含み教育プログラムを評価する仕組みを運用するとともに、教育に関わる広い範囲の関係者を委員として参画させ、意見聴取や討議を継続する。

教育活動等の状況がわかる資料

資料 1.3-4　2025 年度第 2 回医学科カリキュラム委員会議事要旨

資料 4.4-2　2025 年度第 1 回医学科プログラム評価委員会議事要旨

８　統轄および管理運営

改善した項目

８．統括および管理運営	**８.１ 統轄**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
統括業務とその決定事項の透明性確保を一層推進することが求められる。	
関連する教育活動、改善内容	
教務委員会規程の改正(資料 8.1-1)を同委員会で審議を行い、教務委員会の議事要旨の一部を教育に係る教職員へ共有することが承認された(資料 8.1-2、資料 8.1-3)	
今後の計画	
2026 年度より ICHO（Information and Communication Hub in Osaka university）内で教務委員会の議事要旨の一部を教育に係る教職員へ公開する予定である。	
教育活動等の状況がわかる資料	
資料 8.1-1 大阪大学医学部医学科教務委員会規程 資料 8.1-2 2025 年度医学科教務委員会議事要旨（2025 年 11 月 10 日開催） 資料 8.1-3 医学部医学科教育研究会議記録（2025 年 11 月 13 日開催）	